

知床の窓から見えるもの

2020年3月4日（水曜日）

診療所3階の通所リハビリセンターで作業療法士をしております。私は2年間羅臼で働いており、4月から釧路に異動することとなりました。羅臼に来た当初は、買い物の不便さや休日はやることもなくボーっとしているなど、なかなか環境に慣れるまで大変でした。しかし職員や地元の方々の優しさや温かさもあり、現在まで楽しく働くことができています。

羅臼で働いて良かったと思えた事例を一つ紹介させていただきます。

脳梗塞になる前は毎日岸壁で釣りをしていましたが、発症後何年も釣りに行くことが出来ない利用者様がありました。私の趣味が釣りということもあり、羅臼に着任してから一緒に釣りに行く計画を立て、釣りを行うために必要な動作（例えば竿を遠くに投げる動作など）をリハビリまたは自宅で練習しました。実際に釣りに行ってみたいのはもちろんのこと次にもっと楽しく釣りをするためにどんな運動を家でやるべきかを本人と考えながら行っていました。実際一番最初に行った際は移動から道具の準備まで私が行っていましたが、最終的には移動だけ見守りで他のえさを付ける、竿を投げるなどは一人で行えるようになりました。ずっと出来なかったことがリハビリや自宅での運動を通して少しずつ出来るようになり、笑顔が増えてくる様子を見ると作業療法士はやはり甲斐のある仕事だと常と感じます。

釧路の病院で勤務となりますが、羅臼で学んだことや人間関係などは今後も大切にしていきたいと思っています。



一緒に釣りに行った利用者さんが釣り上げた秋鮭
私は一度も釣ることが出来ませんでした…